

最新アトピー講座

アトピー性皮膚炎患者の心理的社会的葛藤へのナラティブ・アプローチ

アトピー性皮膚炎を長期に抱え、身体的心理的社会的苦難を抱えるご本人、ご家族の皆様へ

心身ともに苦難を抱える日本のアトピー患者

- 日本でのアトピー性皮膚炎の患者は年々増加し、厚生労働省の調査では平成17年の患者数は38万4千人となっています。患者は「標準治療」を受けていますが、コントロールは難しく、治療が長期にわたり、治らない自分を責め、焦りを募らせるなど、心理的な葛藤に追い込まれてしまいます。また、成人患者は学業、仕事に影響が生じてしまうため、家族問題、経済的問題を抱えています。しかし、問題なのは日本における医療側の治療方針と患者側のニーズの間にずれがあることであり、患者は自分を責める必要はないのです。

アメリカでの最新アトピー治療

- 講師は長年にわたって重度のアトピー性皮膚炎に苦しみ、1999年にアメリカでのアトピー治療を受けて完治しました。
- アメリカの高度な医療は、
 1. バクテリアや空気のアレルギーなど、患者それぞれの原因を調べ、
 2. それら原因を一つずつ治療します。
 3. そして、原因毎のセルフケアを学んでいきます。
- アトピーやアレルギーは遺伝性の疾患でもあるため体質を変えることはできませんが、高度な治療により健康な肌を保つことは可能なのです。アトピー患者のニーズとは、生活と仕事を楽しむことができるようになることです。
- 今回の6回の講義では、これらについて解説し、治療の可能性について紹介してゆきます。

アトピー患者の心のケア

- 日本のアトピー患者は、幼少期からの苦闘体験によって、その人の心に生きづらさなどの心理的影響を与え、ADonAC（アトピー性皮膚炎によるアダルトチルドレン）という状況になっていることも少なくありません。長期間の闘病生活で、精神的に追い詰められ、また少ない情報の中で行き場のない葛藤を抱えています。このことはさらに患者や家族に適切な医療の選択から遠ざけるという結果に繋がっています。

- 自身の完治回復後、長年にわたってアトピー患者の言葉を聞き続けてきた講師が、臨床心理という視点からアトピー患者とご家族を支援する機会を提示します。

大切なのは、患者自身が選択の幅を広げること

- 講師自身、長いアトピー治療の中で、失意を味わうこともしばしばありました。しかし、ドクターの「アトピーとは“感じやすい”という才能を持っていることである」という言葉に勇気づけられ、今では「アトピーは両親からの『贈り物』である」と思えるようになりました。
- 日本での長い治療に挫折し、自分を責めている人に伝えたいです。あなたは間違っていない。自分を責めてはいけません。大切なのは、患者自身が正しい知識を学んで、選択肢の幅を広げることなのです。自分を一番大切にすることから始めてもらいたいと思います。

対象

- アトピー性皮膚炎が難治化しているご本人、ご家族
- 最先端のアメリカアトピー医療を学びたい一般の方
- アトピー患者をクライアントにもつ臨床家、医療従事者

プログラム

- 1) 6月30日: 日本型アトピー性皮膚炎ってどんな病気?
 - 2) 7月7日: アトピー性皮膚炎患者と家族の苦闘
 - 3) 7月14日: 高度なアトピー治療、アレルギー治療とは?
 - 4) 7月21日: アトピーの原因と原因別セルフケア
 - 5) 7月28日: ADonAC (アトピー性皮膚炎によるアダルトチルドレン)
 - 6) 8月4日: AD患者のアイデンティティの変容
- ※プログラムは講座の進行状況に応じて前後する場合があります。予めご了承ください。

講師

明石郁生

- 1963年生まれ。明治学院大学経済学部、AIU/CSPPアライアント国際大学臨床心理大学院修士号。
- 18才で成人型アトピー発症。さらにAC（アダルトチルドレン）として複雑性PTSDを抱え、苦闘の人生を送る。30才で日本型ステロイドリバウンドで倒れ、死の淵をさまよう。36才の時に運命的な出会い「アメリカのアトピー治療」で完治。2001年に「アトピーアソシエーションジャパン」発足。臨床心理学を学び自身の回復を生かしてAC、生きづらさに苦しむ家族や子ども、夫婦、経営者らの回復をサポートしている。



明石郁生著
「1%の奇跡」
長く過酷な旅だった。死の淵をさまよっていた私は、ついに「アメリカ医療」でアトピーを完治した!

開催要項

- 日時 2010年 6/30, 7/7, 14, 21, 28, 8/4 水
18時30分～20時30分
- 会場 IFF教育センター
(東京都港区東麻布3-7-3 久永ビル2F)
- 参加費 通し参加 18,000円、スポット参加 3,500円(税込)
※7月7日(第2回開催日)まではスポット参加から通し参加に切り替えることができます。
- お申込 裏面をご覧ください。
※スポット参加のお申込は必要ございません。
参加希望日に、直接会場へ起こしてください。
- 定員 50名(最少催行人数 5名)



■お問合せ (株) アイエフエフ 事業部
〒106-0044 東京都港区東麻布3-7-3 久永ビル 3階
電話:03-5561-9365 FAX:03-5575-0913

<http://www.iff.co.jp> (PCサイト)
<http://www.iff.co.jp/m> (携帯サイト) →
(携帯サイトからお申し込みが出来ます)

